

あうる

Treasure every meeting as it's chance
to happen is only once in a life time.

北海道歴史秘話33

明治時代、大規模遭難事件の 搜索活動で、日本初となる 公的機関のレスキュー犬として 活躍したのは「北海道犬」だった。

アイヌ犬から北海道犬に

動物を追う能力に長け、クマにも恐れずに立ち向かう北海道犬。飼い主に忠実で家につくという一面も持ち、番犬、家庭犬としても優れた犬種である。

ヒトとは古代から付き合ってきた古い友達であり、その起源は今から一万五千年ほど前の縄文時代初期までさかのぼる。縄文人が東北地方から北海道へ渡る際に連れてきたといわれる犬で、その後、北海道の先住民であるアイヌ民族により育種された。

後に蝦夷地に入って来た和人たちは、アイヌ民族が飼っていたのでこの犬たちを「アイヌ犬」と呼んでいたが、明治二（一八六九）年、イギリスの動物学者トーマス・W・ブラキストンが正式に「アイヌ犬」と命名。それからおよそ七〇年後の昭和十二（一九三七）年、当時の文部省によって天然記念物に指定されたことをきっかけに、現在名である「北海道犬」と改称された。

強くて素早くて忠実

北海道の冬の厳しい気候に耐える犬として生き残った北海道犬は、アイヌ民族に長く狩猟犬として飼われ、「セタ」と呼ばれていた。猟では時に獰猛なヒグマを相手にすることもあり、猟犬には非常に強い気質が必要だったし、エゾシカ猟では足の速さと俊敏さが求められた。強さと素早さを併せ持つ「セタ」は、複数でヒグマやエゾシカに襲いかかり、飼い主であるマタギが止めを刺すまで、獲物に咬み付いて離さなかった。

しかし一方で、多くの日本犬がそうであるように、北海道犬も飼い主に対しては忠実に愛情を尽くし、これが猟に出た時と同じ犬かと疑うほどの親しみを覚える犬でもあった。アイヌの人々は「セタ」を神の使いと信じ、山に入るにも川で漁をするにも、家族の一員として大事にした。

安政五（一八五八）年に蝦夷地を探索した松浦武四郎は、『東蝦夷日誌』の中で「犬二匹頻に鼻を鳴らし来るや、其犬と共にエカシム弓を持て走り行しが、直に鹿貳頭を得て帰れり。是は皆栗畑え来るを知らしに来る也と。（中略）実に能く仕馴たる者也」と記している。これを見ても北海道犬がい



「アイヌ犬」の正式命名者ブラキストン（函館市中央図書館所蔵）

かに狩猟本能に優れており、アイヌの人々の暮らしに溶け込んでいたかがうかがえる。

国内初のレスキュー犬として活躍

北海道犬が世間の耳目を集めたのは、明治三十五（一九〇二）年一月二十三日から行われた陸軍の行軍訓練で起きた八甲田雪中行軍遭難事件だった。青森歩兵第五連隊二一〇名が遭難、うち一九九名が死亡するという大惨事である。

猛吹雪の中、遭難者の救出作業は難航した。そこで連隊長の津川謙光中佐は、「雪国育ちで経験豊富な北海道のアイヌの人たちを雇い、捜索にあたらせたい」と第八師団参謀長の林大佐に願ひ出た。

大佐はその申し出を受け入れ、函館要塞司令官の谷澤砲兵少佐に相談。谷澤司令官は森村（現在の森町）の医師・村岡格にアイヌの人たちを斡旋してもらい、落部村（現在の八雲町）の辨開胤次郎、その長男の

勇吉、有櫛力蔵、板坂（町史によると「切」是松、碓宇三郎、板木力松、明日見米（同「末」蔵という七人を八甲田遭難の救出捜索部隊として派遣した。その際、各々が一頭ずつの北海道犬を連れて行った。家畜商だった辨開胤次郎は落部コタンのリーダーで、獣医としても尊敬されていた。

一行は二月十日、屯所に到着。翌日から捜索業務に従事した。その方法というのが、連隊が遭難した周辺の地名を地元民から聞き、回避しそうな場所を重点的に探索するというやり方であった。

彼らの身なりは襦袢の上に「アットウシ」を着、鮭皮・鹿皮あるいは馬皮製の靴を履いて、各々が護身の神として懐に狐の頭骨を携えていた。動きは敏捷で、山野を歩いているのに、まるで平地を歩くようであったという。

辨開捜索隊は一日も休むことなく、愛犬と共に雪深い八甲田山中を歩き廻り、遺体や遺留品を次々と発見。六七日間にわたった捜索は四月十九日に終了。遺体一一体と多数の遺品を発見した。一日の賃金は辨開胤次郎、有櫛力蔵が二円、他は一円五〇銭であった。

大きな成果を挙げた辨開捜索隊は三月上旬には賞与も支給された。さらに連隊長から各人に感謝状と金一封の付与もあり、大いに感謝されている北海道帰還となった。この捜索活動は、公的機関がレスキュー犬を使用した日本最初の事例といわれている。

愛される北海道犬

アイヌの人々の暮らしが近代化されるに

つれ、狩猟方法も弓矢から猟銃となり、獲物のヒグマも激減。北海道犬の出番は減る一方であった。しかし昭和三（一九二八）年の日本犬保存会創設にはじまる日本犬ブームにより、北海道にも保存会が設立され、北海道犬の保護・繁殖活動が始まった。現在では重厚で素朴な美しさは何物をも恐れない沈着冷静な性格が日本人の心をとらえ、CMにも登場する人気の犬種となっている。



村岡コレクション「明治三十五年一月、日本陸軍第八師団歩兵第五連隊が八甲田山中行軍訓練で遭難し、捜索段階の初期に辨開胤次郎らとともに、彼らが所有するアイヌ犬をつれて遭難兵士の捜索を行い、多大な成果をあげたとされている」（松前町郷土資料館所蔵、左から四番目が辨開胤次郎）

とても勇敢で猟が得意な
北海道犬は、「セタ」と呼ばれ
古くからアイヌの人々の
狩猟を助けてきた。

あつろの 杜 イラストレーター すずきももさん

Interview

今回お話ししてくれ
るのは、イラストレータ
ーのすずきももさん。小・中・
高校とずうっとタ張で育った
ももさんは、色や形の原風
景にタ張の自然があると
いいいます。

学生時代から独立まで

高校時代、美術の最初の授業の
とき、私が絵を描いていたら、先
生が「おまえは美術の勉強をした
方がいい。美術クラブに入って勉
強してみないか」と言ってくれま
した。でも、私はずうっとバスケッ
トボールをやっており、入学して
すぐにクラブに入部してしまった
ので、週一回あった必修クラブで
美術を選択しました。

さらに先生に「毎週課題を出す
から、デザインの勉強をしろ」と
言われ、例えば線とマルと鉛筆
の濃淡だけで一〇センチのマスに
五〇個のデザインを考えて入れる、
などという課題を与えられました。
毎週五〇個ですよ。バスケットを
やり、家に帰ってご飯を食べ終え
ると、もう夜の九時、一〇時。そ
のあと、勉強をしないでデザイン
ばかり。それを二年間びっしり
やっていましたが、進路を決めな
ければならない三年生になった時
に、その先生が転勤してしまっ

んですよ。

次に来た先生に「デザインカイ
ラストの仕事をしたんです」と
言ったら、鉛筆デッサンを教えて
くれました。暇があると美術室に
行って、その先生にずうっと鉛筆
デッサンを習っていましたね。

高校を卒業し、札幌大谷短期大
学の美術科デザインコースに行き、
その後デザイン業界に行こうと
思っ、短大の勉強だけでは即戦

「おいしそうね」と わくわくする絵本を 描きたい



初のコミックエッセイ
『おいしい大地、北海道!』

すずきもも

イラストレーター、絵本作家。
東京生まれ、北海道育ち。パッケージや雑
誌などのイラストレーション制作のほか、
本や絵本を多数執筆。旅と食べることが
大好きで、スローフードやスローライフを意
識した日々を暮らす。
「だい好きパンの会」主宰。「スローフード・
さっぽろ」代表。近著に絵本『はるとなつ
はたけのごちそうなーんだ?』(アリス館)、
『おいしい大地、北海道!』(イースト・プレ
ス)がある。



小さい頃から本の虫

小学校の六年間で、学校の図書

力にならないため、一年間はアル
バイトをしていました。でもやは
りデザイン業界に入りたいと思い、
デザイン事務所に勤めました。

三カ月の試用期間が終わわり、こ
の先事務所に残ろうかどうかどうしよう
かと迷っていた時に、たまたま知
り合いのデザイン事務所に見習い
の仕事があったので、そちらに行
くことにしました。そこで三年ほ
ど勤めましたが、広告デザインの
イラストレーターとして仕事をし
ていきたいので、二五歳になる前
に主人と二人でデザイン会社を創
りました。

室にある本はほぼ読みつくしたと
思います。自分でもお小遣いの代
わりにずっと本をとって、少
年少女文学のようなものを読んで
いました。私には二人の妹がおり、
母は子育てが大変でしたから、こ
の人には本を与えていければいいだ
ろうという感じでしたね。でも楽
しかったからそれで満足でした。
いつかは本の仕事をしたいな
と思っていたところ、たまたま北
海道新聞社さんの雨竜沼の登山ガ
イドの本に一〇〇点以上の野草の
イラストを描かせてもらいまし
た。それがきっかけで、本の女性
編集者さんと知り合いました。お
互い食べることが大好きで、話
すうちに「何か企画を考えてみま
しょうか?」ということで試行錯
誤の上でできたのが「さっぽろおさ
んぼ日和」。当時そのような本がな
かったこともあり、書店さんも面
白がってくださり、おかげさまで
二〇〇七年と〇八年の二年続けて、
日経の北海道で売れた本の一位に
なりました。

食べ物コンセプト

絵本はずうっとしたかった仕事
です。私がこだわってきた食べる
ことや生産者のことなどを意識し
た絵本を描きたいです。「これおい
しそうね」って、お母さん、お父さ

ん、おばあちゃん、おじいちゃんが
子どもに読み聞かせしながら、「今
度つくってみようか」とか「食べて
みたいね」とか食べ物にわくわく
できる絵本がいいなあ。

一月には初めて漫画の本も出し
ました。北海道の食材をテーマに
したコミックエッセイです。この
一五年以上、スローフードの会の
活動を行っているので、「食べ物」
がすっかり自分のベースになっ
てしまい、今回のコミックエッセイ
でも、絵本を描く上でも、自分の
コンセプトになっています。

十勝から立ち上がったスロー
フードの会ですが、のれん分けで
二年前にスローフードさっぽろを
立ち上げました。この会のおかげ
で生産者とも仲良くなれたし、そ
こに付随してくるたくさんの人た
ちとも知り合えました。私がプロ
デュース・編集させてもらった黒
千石大豆の本もそうです。

去年と一昨年、東京の出版社か
ら野菜の絵本を出版しましたが、
台湾や中国からもオファーをいた
だき、五月一日から六月三日ま
で、台湾で原画展を行います。海外
に北海道の野菜を持って行くのは
個人的には無理だけれど、イメー
ジは持って行けるので、北海道の
ことを外にドンドン知ってもらい
たい、と思っています。

「慣用読み」

「憧憬」「消耗」「洗滌」「輸出」という言葉を、みなさんはそれぞれどう読みますか？「どうけい」「しゅうもう」「せんじょう」「ゆしゅつ」と、何の疑問もなく読むのではないのでしょうか？

これ、本当の読み方は違うんです。もとは「しゅうけい」「しゅうこう」「せんでき」「しゅしゅつ」というのが「正しい読み方」でした。

恐らく、「憧憬」は「憧」の右側のつくりが「どう」と読めるため、読み方が分からなかった人が「董」の文字を手がかりに「どうけい」と読み、それが次第に広がったと考えられます。「消耗」も同じですね。「耗」を読めなかった人が、つくりの「毛」を「もう」と読んで「しゅうもう」となったのでしょう。

「洗滌」も「滌」のつくりを「じょう」と読むことから「せんじょう」という読み方が定着。さらに「滌」の字が常用漢字ではないため、「せんじょう」という読み方に「洗滌」の文字を当てました。こうして「洗滌」という新しい熟語が生まれたのです。

このように、本来は間違っている読み方が浸透して一般的になり、そのまま定着してしまったものを「慣用読み」といいます。

そのほかにも慣用読みには、「固執」「こしゅうこしつ」、「直截」「ちよくせつ→ちよくさい」、「攪拌」「こうはん→かくはん」、「堪能」「かんのう→たんのう」、「独壇場」（どくせんじょう→どくだんじょう）など、たくさんあります。

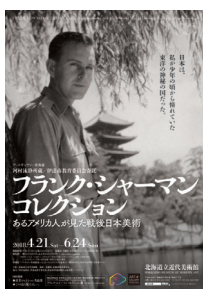
いま、これらをもともの正しい読み方でしゃべったところで、他の人に理解してもらえないとは思えませんが、もう昔に戻るわけにもいかない……といったところでしょうか。

OWLINFORMATION

日本と芸術を愛したあるアメリカ人の軌跡

アートギャラリー北海道 河村泳静所蔵／伊達市教育委員会寄託
フランク・シャーマンコレクション
あるアメリカ人が見た戦後日本美術
4月21日(土)～6月24日(日) 9:30～17:00(入場は16:30まで)
北海道立近代美術館(札幌市中央区北1条西17丁目 TEL011-644-6882)
休館日／月曜日
観覧料／一般510(420)円、高大生250(170)円、65歳以上・中学生以下無料
※()内は10名以上の団体料金。ほか高校生土曜日無料など各種割引・無料制度あり

GHQの印刷・出版担当官として1945年来日したフランク・エドワード・シャーマンは、藤田嗣治をはじめ多くの日本人芸術家と親交を持ち、彼らを支援しました。一方でシャーマンは自ら多くの写真を撮影し、作品を収集。現在は約5,000点が北海道伊達市教育委員会に寄託されています。今回はコレクションから絵画・写真・資料など約60点を展示。一人のアメリカ人の交友の軌跡から、戦後日本美術の一面を紹介しつづけます。5月12日には北道立近代美術館の河村氏を講師にギャラリー・ツアーが行われる予定です。なお会期後の7月7日～9月2日には三岸好太郎美術館で第2弾展が開催され、こちらでは藤田嗣治や猪熊弦一郎らの貴重な作品や写真資料などがお楽しみいただけます。



「群れと個」を基軸に制作を続けた郷土画家

小川原脩展
遙かなるイマージュI
4月28日(土)～8月26日(日) 9:00～17:00(入場は16:30まで)
小川原脩記念美術館(虻田郡倶知安町北6条東7丁目1 TEL0136-21-4141)
休館日／火曜日、7月9～13日(展示替え休館)
観覧料／一般500(400)円、高校生300(200)円、小中学生100(50)円
※()内は10名以上の団体料金

倶知安町生まれの画家・小川原脩は東京美術学校を経て画業を開始しましたが、終戦を契機に倶知安に戻り、以後60年以上にわたり郷里で創作活動に専念した人物です。〈遙かなるイマージュ〉は、画家の創作姿勢をあらわすフレーズを掲げ、来年4月まで3期にわたり開催される常設展。この第1期では全年代を網羅しながら、小川原脩がそれぞれの時代に向き合った代表的な主題の作品を展示。特に前年度に修復された「植物園」に代表される、1930年代後半から1950年代の作品を充実させて紹介します。また企画展「ちいさな犬の作品たち」を7月8日まで同時開催。同館のもう一つのコレクション「武内コレクション」からの多彩な作品や、小さな犬を題材とした小川原脩の小品など、表情豊かな作品がご覧いただけます。



「北海道ノンフィクション賞」受賞作品集

りんご侍と呼ばれた開拓者
汚名を返上した旧会津藩士の軌跡
森山祐吾・著
定価:本体1,500円＋税

戊辰戦争に敗れ、北海道に移住させられた旧会津藩士たちが、余市にりんご王国を築き上げた再生の軌跡を描く表題作をはじめ、北海道にまつわる4編を収録したノンフィクション作品集。

実業家・新田長次郎の友情と至誠を貫いた人生、太平洋戦争期の受刑者による南洋飛行場建設秘話、木版画家・阿部貞夫の創作に魂をかけた生涯など、北海道を起点に、埋もれかけた史実に光を当てています。



中西出版
四六判、277頁
2018年3月刊行

十勝発、食と健康のレシピ集、第3弾！

ワンプレートdeバランスごはん3
帯広大谷短期大学・編著
定価:本体1,200円＋税

農業王国・十勝で食を学ぶ帯広大谷短大生活科学科栄養士課程の栄養士の卵たちが考えたワンプレートごはんのレシピ集。3冊目となる今回は、地域や他校との連携の深まりを反映した6つのテーマを取り上げ、健康で豊かな食卓を提案しています。栄養素やバランスに配慮して考案されたワンプレートレシピのほか、地元の食材を使った地産地消の一品料理、教育連携から生まれたレシピも収めた充実の一冊です。

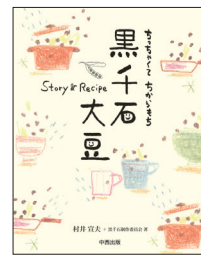


中西出版
A5変形判、96頁
2018年3月刊行

幻の小粒大豆「黒千石」応援本

ちっちゃくて ちからもち
黒千石大豆～Story&Recipe
村井宣夫+黒千石制作委員会・著
定価:本体1,000円＋税

栄養価の高さや健康への効果から、いま食材として注目を集めつつある極小粒の黒大豆「黒千石」。北海道在来種のこの豆は、栽培のしづらさなどから一時はほとんど作られなくなり、「幻の黒大豆」となっていました。その復活と生産拡大、普及にかけた村井さんのものがたりと、研究が進む黒千石の機能性をイラストや写真でわかりやすく紹介。おいしさを引き出す免疫強化レシピも収めた黒千石応援本です。



中西出版
A5変形判、127頁
2018年4月刊行

